

家族で防災会議を開こう!!



～いざというとき、どこに逃げる?
どう連絡し合う?～

- ▽家の中の安全点検
- ▽家の外回りの安全確認
- ▽避難場所や安否確認の方法を
チェック



備蓄品 (二次持出品)

避難時や、安全を確認して自宅へ戻れる時のために、自身・家庭でも備えておきましょう。

チェック欄	品名
	レトルト食品(ごはん・おかゆなど)、アルファ化米
	インスタントラーメン、カップみそ汁
	飲料水(1人1日3ℓ、1週間分)
	給水用ポリタンク(水道水を溜めておく)
	カセットコンロ
	ティッシュペーパー、ウェットティッシュ
	ラップフィルム
	紙皿、紙コップ、割り箸
	簡易トイレ
	水のいないシャンプー
	ビニール袋(透けないもの)
	ロープ
	工具セット
	ほうき、ちりとり
	ランタン
	長靴

ローリングストック

普段も食べることができて日持ちのする缶詰やレトルト食品など、通常消費する2倍の量を購入します。普段の食事で期限が早く切れるものから消費し、半分消費した時点で同じ量を買って足すことで、常に一定量を保って備蓄しておくことができます。

賞味期限切れで廃棄するなどの無駄がなくなり、在庫管理がしやすくなります。

まず自分自身を守ろう!!



「阪神・淡路大震災を経験して、つかえ棒を付けたわ。意識を持ったのはそこからやね」台所の食器棚をつっかえ棒で支えている立間信久さん。
部屋の壁にはヘルメットと懐中電灯。備えの意識の高さがうかがえます。
「あの地震から自分事となったね。道もガラスとか割れてふさがれるから逃げることもできへんで。靴は用意しとかなあかん、あとヘルメット。避難場所の把握はもちろんやけど、まず広いところ。家族で話し合いして決めとかな」
経験はしていなくても、テレビなどの状況を見て意識は変わったと言います。
「非常用持ち出しリュックもあるんで。3人家族やから3つな」
地震当時、自身の被害は少なかったため、立間さんは地域の人と共に被災された現地に行き、雑煮を作ったそうです。その際、水の支援も喜ばれたと言います。
皆さんも危機感を持って、備えの大切さ、その時がきたことを想定し準備をしてください。
それは1秒後かもしれない。自助の重要性を再確認しておきましょう。

非常時持出品 (一次持出品)

大災害時には、市だけでなく大阪府や国からも支援物資が必ず届きます。しかし、物資の到達には若干の時間がかかることも考えられます。いざという時に、自身の「ストック」もあればパニックにならず、まず自分の命を守れます。できるだけコンパクトにまとめ、避難袋やリュックサックに入れ、玄関など置く場所を決めて準備しておきましょう。

持ち運びの目安

男性15kg、女性10kg、高齢者や子ども6kg

チェックリスト

- 現金(10円玉) 預金通帳 印鑑
- 保険証 免許証 個人番号カード
- 懐中電灯 携帯ラジオ 予備の乾電池
- ヘルメット・防災ずきん 厚手の手袋
- 毛布 缶切り ライター・マッチ
- ナイフ 携帯用トイレ 救急箱
- 処方箋の控え 胃腸薬・便秘薬・持病の薬
- 生理用品 乾パン 缶詰
- 栄養補助食品 アメ・チョコレート
- 飲料水 下着・靴下 長袖・長ズボン
- 防寒用ジャケット・雨具 携帯用カイロ



立間信久さん(梶町四丁目在住)

大阪府代表
06・6941・0351

危機管理室
06・6992・1497

大阪 訓練

Osaka 8.8million drill

守口市でも
実施します!!

〜地震発生!その時あなたは
どうしますか?〜

9月5日(火)午前11時に、情報伝達訓練が府下一斉に行われます。スマートフォンなど市民の皆さんの対応携帯電話に、訓練として「大地震発生!」の緊急速報メールが一斉配信されます(午前11時3分~大阪府から、午前11時10分~守口市からメール配信)。

この機会を利用し、いざという時にきちんと行動できるよう、「災害発生」の緊急情報を受け取ることでどのように身を守る行動を取るか想像し、万が一に備えましょう。